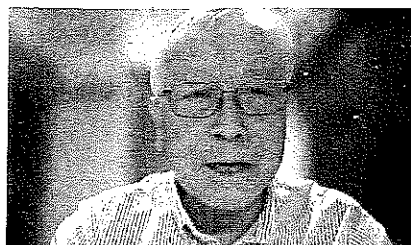


2021年(令和3年)8月30日(月曜日)

LiB循環の促進へ

レアメタル資源再生技術研究会

第21回講演会をウェブ開催



開会のあいさつをする
藤田会長

レアメタル資源の循環利用に関わる産官学の関係者でつくるレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久(会長)は8月

23日、第21回講演会をウェブ開催した。新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインセミナー形式で開催。「2050グリーン成長戦略に見る各種資源リサイクル」リチウムイオン電池(LiB)のリユース・リサイクル」をテーマに、5人の講師が講演。当日は約150人が参加登録し、近年問題化しつつある使用済みLiBの循環利用について知見を深めた。

開催に先立って藤田

会長があいさつし「気候変動対策としてEV(電気自動車)への移行が国際的に進み、電子化が促進するなかで、LiBの使用は増えている。一方、含有レアメタルの回収や、火災の発生要因になるといった課題もある。ぜひ、こうした課題について考えてほしい」とした。

続いて、藤田会長より「中国国内での自動車EV化とリチウムイオン電池のリユースとリサイクル」について講演した。まず氏は世界のLiB使用先のうち70%以上を自動車用が占めると紹介するとともに、中国での生産・販売が増加している点を指摘し、このままではコバルトとニッケルで供給不足になるとした。一方、リユースやリサイクルに関する研究開発も活発となっているなかで、今後の課題として、インフラやトレーサビリティの確立、原料の違いによる処理方法の確立、生産者と循環業者との共同処理などの推進が必要とした。

発火要因、対策などを紹介。今後の管理の在り方として、EUで先行する循環経済への組み込み、法令による対応といった可能性を指摘した。

さらに、実際のLiBリサイクル事例として、DOWAエコシステムの渡邊亮栄氏、JX金属の竹内智久氏が、それぞれの事業を紹介。EUの電池規制を勘案し、LiB to LiBのループ確立などに取組んでいる現状を説明した。

た。

次に(国研)国立環境研究所・寺園淳氏が講演。「リチウムイオン電池含有電気製品の循環・廃棄と火災防止対策」として、最近の発火事故の傾向の変化や